


|              |   |   |  |
|--------------|---|---|--|
| 会 派 名        | 民社友愛  |   |  |
| 報告者氏名        | 佐藤和典、相澤宗一   |   |  |
| 種 別          | <input type="checkbox"/> 調査研究 ( <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察) <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議   |   |  |
| 用 務          | まちのブランディングと魅力の発信  |   |  |
| 日 時          | 令和6年1月30日(火) 10:00~11:30  |   |  |
| 場 所<br>(会 場) | 尼崎市役所<br>(兵庫県尼崎市東七松町1丁目23-1)  |   |  |
| 調査項目等        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域文化資産を中心とした観光地域づくり</li> <li>・居心地よく歩きたくなる駅前空間の創出</li> </ul>   |   |  |
| 概 要          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○概要説明               <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市再生整備計画</li> </ul> </li> <li>○重点取組地域               <ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神尼崎駅周辺<br/>(商業、城内、寺町、文化・公共)</li> <li>・中央公園リニューアル<br/>(阪神尼崎駅北側)</li> <li>・社会実験(歩行者利便増進道路)</li> </ul> </li> <li>○今後の観光振興の取組               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベイエリアの活性化</li> <li>・尼崎城×食</li> <li>・デジタル地域通貨</li> </ul> </li> </ul> <p>*地域文化資産(尼崎城ほか)と商店街のイベントや情報発信を通じて活性化を図るとともに、駅周辺の特色を活かし、リノベーションにより魅力を伸ばして、再生・活用し、にぎわいの創出やイメージ向上を図っている。</p> |  |  |
| 所 感 等        | <p>&lt;佐藤和典&gt;<br/>         尼崎市は工業都市という印象が強かったが、平成30年より、あまがさき観光局を中心に尼崎城(2019年オープン)や市立歴史博物館を利用した観光に取り組んでいる。また、大阪への交通の利便性、市内のものづくり産業を活かした多様な観光の取り組みに着手している。以前、私は柏崎市の一般質問において、枇杷島城跡を活かしたまちづくりについて提案したが、そのイメージ通りの市政運営であった。海に面しており、食も豊かなこと、そして工業都市と言うところも柏崎市と同様であり参考とすべき所が多々あった。また、阪神・阪急・JR等の各々の駅前の特色を生かしながらの再開発も参考となる。各社の鉄道の駅はビュクステーションではなく柏崎駅と同規模なので、やろうと思えばできる範囲と理解する。コンセプトを市民と共有し再開発を急がなくてはならないと感じた。</p> <p>&lt;相澤宗一&gt;<br/>         交通の利便性や同じ条件の住居においては手頃な価格であるなど、「あま」と呼ばれ親しまれて、関西で「住みたい」街として上位に食い込むほどに変化し続</p>   |   |  |

|            |   |
|------------|---|
|            | <p>けている。12年前に尼崎市にシティープロモーション推進部が設置され、観光への取り組みが始動した。人口微増の尼崎市においても、子育て世代が転出超過をしているという深刻な課題を抱えていることから、定住転入の促進を図る目的でもある。また、ニュース性の高い「阪神タイガース」の活用（ゼロカーボンベースボールパーク）も準備中であり、話題性を持つことが、かつての悪かったイメージの改善に繋がることから、一つでも多くの目玉となる取り組みが強いインパクトを与えられるとのご示唆をいただいた。</p>  |
| 種別         | <input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議  |
| 用務         | 議会質問特別研修  |
| 日時         | 令和6年1月30日（火）14:00～1月31日（水）12:30   |
| 場所<br>（会場） | 大阪市<br>（リファレンス大阪駅前第4ビル）   |
| 調査項目等      |   |
| 概要         | <p>講師；宮本正一（日本公共経営研究所代表）<br/>         &lt;質問聞き取り時の職員対応マニュアル&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 答弁調整はこう使え</li> <li>・ 職員との上手な付き合い方</li> <li>・ 質問の主旨をきちんと伝えよう</li> <li>・ これからの地方議員に必要な能力</li> </ul> <p>&lt;質問本番の取り組み方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質問の効果と議員そもそも論</li> <li>・ 議場でのルールで困ったときはどうすればいいのか</li> <li>・ まともな答弁が返ってこないときどうするか</li> <li>・ 感情と理論のバランスを意識した原稿を</li> </ul>  |
|            |   |
| 所感等        | <p>&lt;佐藤和典&gt;</p> <p>民間会社の目的は「利益の最大化」だが、役所は「住民満足度の向上」であり、それぞれのゴールが違う。そのことを幹に据えてこれから活動していきたい。講師は一般質問を総括尋問と捉え解説した。私自身、一般質問の議論の視点や一年を見越した議会質問等、振り返ってみれば当面の課題のみに追われがちになった反省がある。自身の訴えたいことをしっかりとした軸（幹）として構築する必要がある。一方、一般質問の答弁調整（柏崎市で言う聞き取り）では、議員の資質向上への絶好のチャンスととらえ、執行部側とのネットワークの構築が大事だということを学んだ。そのことが、市民からの相談や調査活動に対し、迅速に担当課へとつなぐことが出来るという副次効果となってくる。</p> <p>&lt;相澤宗一&gt;</p> <p>民間の経営と自治体の経営は最終ゴールの違い（民間の目的＝利益の最大化、自治体の目的＝住民満足度の最大化）があるものの、自治体においては経営の感覚が大事であるといわれている。また、議員は民間でいえば大株主にあたることから、住民の代表として経営のおかしなところは追及しなければならない。そのために活用する「一般質問」は「総括尋問」と言い換えて良く、市政全般に関して納得するまで口頭で問い続けることができる儀式である。ゆえに執行部とは対等に勝負する必要があり、それには法律をしっかりと押さえるための日々の勉強が重要となる。</p> |